

○ 各教科ごとの出題方針

国 語	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、国語で正確に理解し適切に表現する力をみることをねらいとした。出題に当たっては、中学生の実態にあった素材を広く求め、知識及び技能と、思考力、判断力、表現力のバランスをとり、平素の学習活動が生かされるよう配慮した。また、言語活動を想定した問題を通して、論理的に思考し、表現する力をみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 知識及び技能 言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方については、漢字の読み書き、書写、表現の技法、文法の基礎的な事項、情報の整理に関する事項などについての力をみるようにした。 【四】では、中唐の詩人の詩文集より漢詩を出題し、音読に必要な文語の決まりや古典に表れたものの見方や考え方を理解し、我が国の言語文化に関する事項についての力をみるようにした。</p> <p>(2) 「話すこと・聞くこと」の領域 【一】では、「地域のおすすめの場所」のスピーチを行うための構成メモに関する話し合いの場面を設定し、自分の立場や考えが明確になるように、話の構成を考える力を問うとともに、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考える力をみるようにした。</p> <p>(3) 「書くこと」の領域 【五】では、パンフレットの表紙にふさわしい書体について考える場面を設定し、根拠を明確にして自分の考えが伝わるように工夫して書く力をみるようにした。</p> <p>(4) 「読むこと」の領域 【二】では、夜間中学に通いたいと決心し学校を訪れた主人公が、そこで出会った人物達とのやりとりを描いた文章により、描写に着目して文章の内容や登場人物の心情を理解する力や、文章中にある表現の効果について考える力をみるようにした。 【三】では、ヒトが農業を始めたことによってどのようなことが起きたかを論じた文章により、文章の構成や展開、筆者の主張を捉えるとともに、文章を読んで理解したことや考えたことについてまとめたりする言語活動を想定し、文章の内容を正確に捉える力をみるようにした。</p>
社 会	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、中学校社会科で扱う学習内容に関しての知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容についてバランスよく出題し、社会的事象を総合的に関連付けて考察できるように配慮した。</p> <p>分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 地理的分野 「世界と日本の地域構成」に関しては、ヨーロッパの社会環境についての問いで知識及び技能を、時差の活用についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「世界の様々な地域」に関しては、ヨーロッパの自然環境についての問いで知識及び技能を、食料生産をめぐる課題についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「日本の様々な地域」に関しては、日本の農業生産の特徴についての問いで知識及び技能を、都市問題の解決策や日本の食料生産の課題についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(2) 歴史的分野 「近世までの日本とアジア」に関しては、平安時代初期の中国王朝や中世の農民の団結についての問いで知識及び技能を、中世の土地に関することからの並べ替えや太閤検地の説明についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「近現代の日本と世界」に関しては、米騒動とその影響や農地改革についての問いで知識及び技能を、女性の社会進出の歴史や米の配給制開始後に起こったことからの問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(3) 公民的分野 「私たちと現代社会」に関しては、先進国の高齢化率の推移についての問いで知識及び技能をみるようにした。 「私たちと経済」に関しては、企業の社会的責任についての問いで知識及び技能を、日本の労働問題の説明や外国人宿泊者数増加の背景についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「私たちと政治」に関しては、裁判所の仕事や地方公共団体の仕事についての問いで知識及び技能を、一票の格差の是正や国会の種類についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「私たちと国際社会の諸課題」に関しては、人間の安全保障についての問いで知識及び技能を、持続可能な観光の考え方についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p>

数 学	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、それらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。出題に当たっては、各領域をバランスよく出題し、数学の事象について統合的・発展的に考察する力をみるよう配慮した。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「数と式」の領域 数や文字式の四則計算、二次方程式などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるようにした。 また、各領域において、方程式や不等号を用いた式で簡潔・明瞭に表現し、処理する力もみるようにした。</p> <p>(2) 「図形」の領域 平面図形や空間図形では、図形の性質などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、証明では、論理的に考察し、表現する力をみるようにした。 また、三角柱を3点を通る平面で切ったときの切り口のできる図形の面積や2つの立体に分けたときの体積を求めたりする問題では、切り口のできる図形や2つに分けた立体を正しく捉え、どのような性質や関係を用いればよいかを論理的に考察する力、図形を多面的に考察する力をみるようにした。</p> <p>(3) 「関数」の領域 比例や関数 $y = ax^2$ の変域・対称性などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、バスと自転車の位置関係を考察する問題では、一次関数のグラフを用いて具体的な事象を捉え、判断の根拠や目的に応じて数学的に考察し、処理する力をみるようにした。</p> <p>(4) 「データの活用」の領域 確率の問題では、起こり得る場合を過不足なく数えあげたり、解決するための見通しを立てて事象を整理したりして求めることができる力をみるようにした。 また、歩数計アプリの誤差について箱ひげ図を用いて考察する問題では、データの傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明する力をみるようにした。</p>
理 科	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能と、科学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。出題に当たっては、分野、領域、学年のバランスをとるとともに、自然の事物・現象についての観察、実験の結果を分析して解釈する力、文章、図、グラフ等により表現する力などをみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「エネルギー」を柱とする領域 物体を水中に沈める実験を通して、ばねばかりや電子てんびんの値と浮力を関連付けて考察する力をみるようにした。また、電流に関する実験を通して、実験結果を分析し、電流と電圧との関係及び電流の働きについて規則性を見だし考察する力をみるようにした。</p> <p>(2) 「粒子」を柱とする領域 電池の実験を通して、電池の仕組みに関する基礎的・基本的な知識をみるようにした。また、物質の状態変化に関する実験を通して、物質の状態と密度の変化を粒子のモデルと関連付けて考察する力をみるようにした。</p> <p>(3) 「生命」を柱とする領域 植物のつくりについての理解を通して、植物をその特徴に基づいて分類する力をみるようにした。また、動物の刺激と反応に関する実験を通して、感覚器官・運動器官に関する基礎的・基本的な知識や、それらをつなぐ神経系のつくりと反応の仕組みを関連付けて考察する力をみるようにした。</p> <p>(4) 「地球」を柱とする領域 地震に関する資料の分析を通して、地震の揺れの伝わり方の規則性を見出す力をみるようにした。また、太陽の動きに関する資料の分析を通して、天体の日周運動に関する基礎的・基本的な知識や、季節ごとの太陽の年周的な変化を、地球の公転や地軸の傾きと関連付けて考察する力や表現する力をみるようにした。</p>

英 語	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、コミュニケーションを図るために必要な知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の各領域にわたり、調和のとれた出題となるように配慮するとともに、語彙、文構造、語法等の知識をもとに、思考力、判断力をはたらかせて、まとまりのある文章を正確に理解したり、英語で適切に表現したりする力をみるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「聞くこと」の領域</p> <p>【1】では、絵画についての対話や移動手段の決定についてのやり取り、自転車レースの大会におけるアナウンス、留学から帰ってきた生徒へインタビューを行う場面における対話を聞き、必要な情報を聞き取る力をみるようにした。</p> <p>(2) 「読むこと」の領域</p> <p>【2】Aでは、姉妹都市から来た外国人留学生と中学生による対話の内容を読み取る力をみるようにした。</p> <p>【2】Bでは、ポスターを見ながら、必要な情報を読み取る力をみるようにした。</p> <p>【4】(1)～(4)では、社会的な話題について、中学生の発表内容やスライド資料の内容、発表後のやり取りの内容を、英文からの情報をもとに読み取る力をみるようにした。</p> <p>【5】では、中学生のスピーチの内容を流れに即して理解し、概要や要点を読み取る力をみるようにした。</p> <p>(3) 「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の領域</p> <p>【3】(2)では、会話文の内容を踏まえて、適切な内容を外国人留学生に伝える力、さらに(3)では、旅行をすることのよさについて、自分の考えを表現する場面を設定し、目的・場面・状況に応じて、英語で適切に伝える力をみるようにした。</p> <p>【4】(5)では、読み取った内容を踏まえて、社会的な課題（地域の伝統的な料理の継承）の解決策について自分の考えを英語で表現する力をみるようにした。</p>
--------	--

○ 各教科ごとの入試問題分析

国 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)	
				A	B		
【一】	問一	(1)	70.5	○		問一(1)「提供」→「提共」という誤答が目立つ。(2)「委ねる」は正答率が低かった。漢字の書き取りについては、楷書で、画数を意識して書くことが求められる。問二は同音同訓の漢字の知識を問う問題であり、漢字の意味を理解し、適切なものを選択する力が問われたが概ねよくできていた。 【構成メモ】を基に話し合いを行う場面を想定した問題は概ねよくできていた。	
		(2)	35.2	○			
		(3)	88.2	○			
		(4)	56.2	○			
	問二	(1)	漢字の知識	76.7	○		
		(2)		66.0	○		
問三	(1)	話し合いの進め方の検討	69.1		○		
	(2)	話し合いの考えの形成	67.8		○		
【二】	問一	品詞の理解	16.2		○	問一では品詞の知識を問う問題だったが、正答率が低かった。問三(2)や問四(1)のように適切な選択肢を選ぶ問題は正答率が高かったものの、問三(1)や問四(2)などの記述問題は、無答も目立つ。また問四(2)では、本文中の人物の台詞をそのまま抜き出したものや、そのまま抜き出したゆえに、前後の文とのつながりが不明瞭な解答も見受けられた。記述する際の漢字の表記ミスなど不注意による失点も見られる。	
	問二	登場人物「露子」の行動の理由	69.2		○		
	問三	(1)	登場人物「さやか」の心情	46.1			○
		(2)	登場人物「さやか」の心情	86.7			○
	問四	(1)	登場人物「露子」の心情	71.1			○
		(2)	登場人物「露子」の心情	3点 12.0 2点 22.8 1点 13.8			○
問五	表現の効果	42.8		○			
【三】	問一	構造と内容の把握	2点 6.0 1点 3.2		○	問一は本文の要旨をまとめた【ノートの一部】を解答する問題であった。問一(1)では、本文の内容を把握し表現する際に、「安全」の要素が抜け落ちている解答や「安定」と「安全」の要素の区別がついていない解答が目立った。特に「安定的な食料」と記述するなど、解答の要素において内容を適切に把握していないと見受けられる記述もあった。問二(2)については、正答率が非常に低く、本文中の表現である「赤字収支」の意味を適切に理解できていない様子が見える。	
			58.8		○		
			29.6		○		
	問二	内容の解釈	64.1		○		
			4点 2.9 3点 1.6 2点 1.0 1点 0.6		○		
			56.2		○		
(3)	考えの形成	56.2		○			
【四】	問一	行書の理解	73.0	○		問一の行書の理解に関する問題については、書写の時間と関連付けた行書の特徴への理解が求められる。問二、問三は正答率が高かった。問四(4)は正答率が50%を下回り、漢詩の構成という基本的な知識に基づいて内容を解釈し、設問を正確に理解することが求められる。	
	問二	漢文の知識	84.0	○			
	問三	漢文の知識	73.0	○			
	問四	(1)	内容の把握	79.9			○
		(2)	内容の把握	66.6			○
		(3)	内容の把握	81.8			○
(4)		内容の解釈	46.2		○		
【五】	問一	情報の扱い方	65.2	○		【五】はポスターにふさわしい字体を選択するという場面を想定し、話し合いの一部や資料を用いて考える問題であった。問三では「パンフレットにふさわしい理由」という条件を適切に理解できていない解答が見られた。また、条件を守りながら作文を書くことができていない解答も目立つ。自分がその書体を選んだ理由と、資料から読み取れる書体の特徴という根拠についての区別が不明瞭な解答もあり、論理的に構成することに課題がある。時間の制限もあったのか【五】に限らず乱雑な文字やひらがなでの記述も目立ち、学習した漢字を適切に使う指導が求められる。	
	問二	書写に関する知識	84.2	○			
	問三	論理の展開の工夫	7点 6.7 6点 6.2 5点 23.3 4点 15.3 3点 13.6 2点 9.5 1点 6.1		○		

【評価の観点】 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力

2. 得点層別にみる解答の傾向と分析

- ・学力検査〔国語〕の平均点 32.0 点に基づき、以下の得点層で評価の観点別に解答の傾向を分析した。
A層：42 点以上 B層：22 点～41 点 C層：21 点以下

（1）知識及び技能を問う問題に関する傾向と分析

A層	○漢字の読み書きは概ね安定しており、伝統的な言語文化に関する事項についても基礎的な力が身に付いている。 ○漢字の書き取り「委ねる」や文法（品詞の理解）については、A層でも課題を残している。
B層	○常用漢字であっても構成要素を書き漏らす「提供」→「提共」のようなケアレスミスが目立つ。 ○漢文の基本的な返り点のルールは理解しているものの、行書の理解をもとに画数を問う問題など、複数の知識を関連させて解く問題で失点する傾向がある。
C層	○漢字の書き取りで無答が目立つほか、漢文の返り点（レ点）を右側に打つなどの根本的な理解不足が散見される。 ○採点対象外となるような文字が多く、文字を正しく書くことに課題を抱えていることがうかがえる。

（2）思考力・判断力・表現力を問う問題に関する傾向と分析

A層	○【五】問三のような複雑な作文条件を概ね理解し、資料の根拠と自身の体験を結びつけた記述ができている。 ○内容の把握においても、抽象的な言葉の意味を本文から適切に読み取ることができる。
B層	○記述問題において、本文の一部を抜き出すことはできるが、設問の意図に合わせて自分の言葉でまとめる段階で、文のねじれや主語の欠落が生じやすい。 ○作文では、複数の資料を統合する際に一部の条件を見落とす傾向がある。
C層	○記述問題の多くが無答あるいは著しく短い解答となっている。説明的文章だけではなく、条件作文などにおいても書くことに苦手意識を持っている様子がうかがえる。 ○本文中に漢字表記があるにもかかわらず、ひらがなで解答する傾向が見られ、字数制限がある問題では圧迫につながっている。

3. 得点層別で差がついた問題

（1）A層とB層で差がついた問題

- 【三】問二（2）：内容の解釈（「赤字収支」の内容を説明する記述問題）
 - ・A層の受験生の一部は、完答とはいかずとも「失われる量」と「補給される量」の論理的関係に言及し、2～3点の部分点を確保している。比喩表現の論理性への理解とともに、対比構造の理解と語句自体の意味を、本文中の文脈に落とし込んで論理的に再構成する力の差が出た。B層の多くは0点または無答、あるいは1点の加点に留まっている。
- 【五】問三：論理の展開の工夫（条件作文）
 - ・A層では、指定された条件を漏れなく、かつ正確にクリアしており、5～7点の層が多い一方で、B層ではいずれかの条件、特に「具体的な経験・見聞」が欠落したり、資料1の内容をなぞるだけになって自分の体験として成立していなかったりすることで、3～4点前後の部分点に留まるケースが多く見られた。

（2）B層とC層で差がついた問題

- 【二】問三（1）：心情把握（登場人物「さやか」の心情）
 - ・B層は心情の根拠となる部分を本文中から特定することはできていた。C層は無答の割合が高く、本文を正確に読み取ることに苦手意識がある様子がうかがえる。
- 【五】問三 条件作文
 - ・B層は資料を比較し、必要な情報の内容を確かめ作文を書くことに取り組んだが、C層では無答の割合が非常に高い。苦手意識がある、あるいは時間内にたどり着けないといった課題がある。

社 会

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)
				A	B	
【1】	(1)	① 日本の農業生産の特徴	91.2	○		(2)①地図から複数の情報を読み取る技能に加え、情報と既習の知識を組み合わせて考察することが必要である。時差の学習については、等時帯や日付変更線を示す地図と地球儀を見比べて考察するなど、時差の概念を理解できるようにすることが大切である。
		② 自然現象の名称	85.2	○		
		③ さまざまな自然災害	43.9		○	
	(2)	① 時差の活用	25.6		○	
		② ヨーロッパの自然環境	76.4	○		
		③ ヨーロッパの社会環境	71.0	○		
		④ 都市問題の解決策	2点 17.0 1点 1.5		○	(2)④「交通渋滞の緩和」という目的に言及していない誤答が多かった。交通を中核とした都市問題については、郊外と中心市街地が機能的に結び付く範囲に着目して、そこで暮らす人々それぞれの生活を踏まえ、背景や目的と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する学習が求められる。
		⑤ 日本のエネルギー資源の輸入先	62.4	○		
【2】	(1)	稲作伝来頃の日本	22.0	○		(1)日本列島周辺の地理的な変化と東アジアの文明の影響が結び付いていない状況がみられた。古代までの日本の学習については、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、多面的・多角的に考察、表現する活動を通して、確かな理解と定着を図ることが求められる。
	(2)	天平文化	54.6	○		
	(3)	中世の土地に関することから並べ替え	42.7		○	
	(4)	中世の農民の団結	67.8	○		
	(5)	太閤検地の説明	2点 35.2 1点 2.9		○	
	(6)	江戸幕府の政策	51.7		○	
	(7)	大塩の乱	55.5	○		
	(8)	米騒動とその影響	49.6	○		
	(9)	米の配給制開始後に起こったことから	40.1		○	
【3】	(1)	先進国の高齢化率の推移	76.9	○		(2)③議員定数の変更が一票の格差の改善につながるとされる理由を問われているが、「有権者数」に言及していない誤答が多く見られた。習得した知識を具体的に働かせる場面を設定することで、概念を理解することが求められる。
	(2)	① 国会の種類	41.4		○	
		② 裁判所の仕事	95.7	○		
		③ 一票の格差の是正	2点 29.1 1点 5.8		○	
	(3)	① 日本の労働問題の説明	2点 8.0 1点 51.8		○	
		② 国民負担と社会保障の充実度の関係性	76.3		○	
		③ 企業の社会的責任	34.2	○		
	(4)	① 国際連合の役割	74.0		○	
		② 人間の安全保障	70.9	○		
【4】	(1)	① 農地改革	57.6	○		(1)①「地租改正」という誤答が散見された。近現代の日本の土地制度に関する政策については、背景、目的、影響などを考察し、内容を論理的に説明する学習を行い、確かな理解と定着を図ることが大切である。
		② 日本の食料生産の課題	70.6		○	
	(2)	地形図の活用	78.4	○		
	(3)	スマート農業の長所と短所	2点 19.0 1点 27.4		○	
	(4)	① 食料生産をめぐる課題	71.3		○	
		② 第二次世界大戦後の国際関係	40.3	○		
【5】	(1)	日本の自然環境	79.7	○		(2)②各時代の特色について、十分に理解が深まっていない状況がみられた。政治の展開、産業の発達、社会の様子など、他の時代との共通点や相違点に着目して、学習した内容を比較したり関連付けたり、その結果を言葉や図などで表したりするなどの活動が求められる。その際、諸資料を積極的に活用することが大切である。
	(2)	① 平安時代初期の中国王朝	61.2	○		
		② 女性の社会進出の歴史	65.9		○	
	(3)	外国人宿泊者数増加の背景	2点 26.0 1点 0.8		○	
	(4)	地方公共団体の仕事	54.6	○		
	(5)	持続可能な観光の考え方	2点 29.4 1点 1.2		○	

【評価の観点】 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力

2. 得点層別にみる解答の傾向と分析

- ・学力検査〔社会〕の平均点 32.3 点に基づき、以下の得点層で評価の観点別に解答の傾向を分析した。
A層：43 点以上 B層：23 点～42 点 C層：22 点以下

（1）知識及び技能を問う問題に関する傾向と分析

A層	○社会的事象に関する基礎的・基本的な知識の定着度が高く、基本的な用語を問う問題において高い正答率を示している。 ○資料から必要な情報を正確に抽出し、既習の知識と関連付けて解答している。
B層	○基礎的・基本的な知識を問う問題は概ね正答しているが、詳細な知識や複数の知識を関連付けて理解する問題において正答率が低下する傾向が見られる。 ○資料に明示されていない知識の活用や、類似した選択肢の判別が必要な問題において、正答に至らない事例が見られる。
C層	○基本的な用語や概念の理解が不十分な解答が多く、知識の習得状況に幅がある。 ○資料から情報を識別・抽出して、既習の知識と結び付ける段階において、情報の正確な処理が十分ではない傾向が見られる。

（2）思考力、判断力、表現力を問う問題に関する傾向と分析

A層	○複数の資料を横断的に比較、分析し、論理的に思考する力が身に付いている。 ○文章記述問題においては、設問の意図に応じた要素を判断し、根拠に基づき論理的に構成して表現している。
B層	○資料の読み取りや分析は概ねできているが、複数の情報を統合して多面的・多角的に考察を深める際に、情報の整理に課題が見られる。 ○文章記述問題において、論理の構成や根拠の提示が限定的であり、論旨の明確化に課題が見られる。
C層	○資料の読み取り自体に困難を抱える場合が多く、資料から必要な情報を抽出することが難しい傾向が見られる。 ○与えられた情報から論理的な関係性を見出し、判断に至るまでの思考過程において、正答を導き出すことが難しい傾向が見られる。

3. 得点層別で差がついた問題

（1）A層とB層で差がついた問題

- 【4】（3）：「スマート農業の長所と短所」
 - ・資料から読み取れる情報をもとに、労働時間の短縮が人件費に与える影響を論理的に説明する問題で差がついた。A層は資料4からスマート農機の導入の前後の変化を適切に読み取り、資料1の情報と関連付けて、「労働時間の短縮」と「人件費の減少」の因果関係を明確にして記述することができたが、B層は資料の情報をもとに適切に活用し、表現できていない傾向が見られた。
- 【5】（5）：「持続可能な観光の考え方」
 - ・持続可能な観光の実現について、複数の資料を読み取り、多面的・多角的に考察し、文章で表現する問題で差がついた。A層は資料を適切に読み取り、経済・環境・社会のそれぞれの側面からの取り組みが必要であることを理解した内容になっていたが、B層はいずれかの視点が欠けていたり、資料から読み取った内容が活用できておらず抽象的な内容となっていたりする傾向が見られた。

（2）B層とC層で差がついた問題

- 【1】（2）②：「ヨーロッパの自然環境」
 - ・基本的な用語である「偏西風」の概念を問う問題で差がついた。C層は無答や「季節風」という誤答が多く、偏西風や季節風の性質などを理解できていない傾向が見られた。
- 【2】（2）：「天平文化」
 - ・「万葉集」について、成立した時期や背景、内容を問う問題で差がついた。B層は作品名や成立時期などを理解していたが、C層は無答や「新古今和歌集」という誤答が多かった。

数 学

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 ([]内は誤答の特徴)
				A	B	
【1】	(1)	① 正の数と負の数	99.2	○		①～⑤の基礎的・基本的な計算の技能は概ね身に付いている。 計算の技能を学ぶ際には、概念や原理・法則を適切に使うことで、数学的な処理の仕方が導き出されることを理解する学習活動が効果的である。 [数学的表記の不備]
		② 正の数と負の数	92.7	○		
		③ 文字式の計算	87.8	○		
		④ 文字式の計算	78.7	○		
		⑤ 平方根の計算	84.4	○		
	(2)	二次方程式	80.5	○		因数分解を用いた計算の技能は概ね身に付いている。二次方程式を学ぶ際に、因数分解を用いるのか、解の公式を用いるのかを判断する学習活動が必要である。
(3)	関数 $y=ax^2$ の変域	64.0	○		関数 $y=ax^2$ の変域は高校の学習に直結する内容であるため、グラフから変域を考える学習活動が必要である。	
(4)	円周角の定理と多角形の内角と外角	31.1		○	多角形の角度を求めるために、円周角の定理を用いたり、さまざまな方針を比較検討したりする学習活動が必要である。	
(5)	図形の回転体	54.5	○		平円を回転させることで球であることを認識し、球の体積を求めるために、公式を正しく用いることが必要である。[π の表記漏れ]	
(6)	平面図形の作図	2点:11.5 1点:21.2		○	基本的な作図の方法が、どのような場面で活用されるかについて考察する場面を設定することが必要である。 [作図対象の誤認(外心との取り違い)]	
【2】	(1)	関数 $y=x^2$ のグラフの性質	74.3	○		関数と図形の性質を融合させた学習活動が必要である。(3)では、放物線上の点Pの x 座標を文字で置き、条件に合わせて考察していくことが重要である。
	(2)	関数 $y=ax^2$ の定数決定	66.8	○		
	(3)	条件を満たす座標の決定	1.9		○	
【3】	(1)	① 確率	62.7	○		(1)では、すべての場合の数について、表を利用するなどして地道に数え上げることが重要である。 (2)では、歩数計アプリの正確性を判断するために、箱ひげ図を用いて、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察したり判断したことを説明したりすることが必要である。 [主語の欠落や用語の誤用による、論理展開の不整合]
		② 確率	37.0		○	
	(2)	① 四分位範囲	81.9	○		
		② 箱ひげ図の比較	2点:26.6 1点:17.6		○	
【4】	(1)	一次関数のグラフの読み取り	72.4	○		問題文の情報とグラフを正確に読み取る力が必要であり、日常生活と関連付けた題材を取り扱うような学習活動が求められる。 (2)③では、条件を満たすように直線を平行移動させ、問われているものを不等号を用いた式で表現することが必要である。
	(2)	① 一次関数の式の決定	59.2	○		
		② 一次関数の交点の座標	16.1		○	
		③ 一次関数のグラフの活用 直線の平行移動	3.3		○	
【5】	(1)	ねじれの位置	74.3	○		(2)では、平面で切ったときにできる切り口の図形を正しく認識する必要がある。 [断面形状の誤認(長方形との混同)] (3)では、2つに分けたときの立体について多面的に考察する学習活動を意図的に設定することが求められる。
	(2)	記号 平面で切った切り口の図形	32.9	○		
		面積 平面で切った切り口の図形の面積	6.1	○		
	(3)	平面で切った立体の体積	2.0		○	
【6】	(1)	三角形の相似の証明	3点:26.9 2点:4.7 1点:25.0 無答:20.6		○	(1)の三角形の相似の証明においては、見通しを立てて、数学的な表現を用いて、根拠を明確にした上で証明することが大切である。 [定義の誤用、および論理的根拠の不足] (2)では、折り返しによってできる図形の性質から、合同や相似の関係になっている三角形を認識し、その関係性を根拠として活用して論じたり説明したりすることが必要である。
	(2)	① 線分の長さ	13.7	○		
		② 三角形の面積	0.1		○	

【評価の観点】 A: 知識及び技能 B: 思考力、判断力、表現力

2. 得点層別にみる解答の傾向と分析

- ・学力検査 [数学] の平均点 28.2 点に基づき、以下の得点層で評価の観点別に解答の傾向を分析した。
A層：39 点以上 B層：19 点～38 点 C層：18 点以下

(1) 知識及び技能を問う問題に関する傾向と分析

A層	○基礎的な問題はほぼ完璧に正解している。計算ミスも極めて少ない。 ○基本的な公式や定理などについても、設問の意図に合わせて正確に運用することができている。
B層	○正の数・負の数などの極めて基本的な計算は定着しているが、文字式の分数計算での符号ミスや、平方根の簡略化不足などの細かな技能不足による失点が見られる。 ○空間図形の「ねじれの位置」は概ね理解しているが、複雑な作図や関数の変域で正答率が下がる傾向にある。
C層	○単一の計算はできるが、複数の手順を要する知識問題から正答率が低下する。 ○空間図形に関する知識や作図の基本技能が定着しておらず、【1】の後半はほとんど得点できていない。

(2) 思考力、判断力、表現力を問う問題に関する傾向と分析

A層	○箱ひげ図の読み取りや相似の証明において、適切な数学用語を用いて論理的に説明できている。 ○難易度の高い図形問題において、学んだ知識を組み合わせて、正解に至る複雑な手順を最後まで正確に解き進めることができているという傾向が見られる。
B層	○証明問題において「根拠となる事柄」の記述が不十分であったり、結論を先に書いてしまうなど、記述の構成に課題がある。 ○箱ひげ図の比較では、最大値などの特定の値のみに注目し、データの分布の傾向を多角的に説明できない答案が目立つ。
C層	○解答方針の立案に苦慮する様子が見られ、無答や条件・数値を書き写す段階にとどまる傾向が見られる。 ○文章量の多い問題に対しては、読解段階でつまづいており、条件を整理して立式する力が不足している。

3. 得点層別で差がついた問題

(1) A層とB層で差がついた問題

- 【2】(3)：「条件を満たす座標の決定」
 - ・放物線上の点Pの x 座標を文字で置き、図形の面積比に基づいて方程式を立てて解決する力が問われた問題。A層では条件に合わせて文字を用いた立式を行い、答えを求められていたが、B層では全体正答率 1.9% という難度の高さもあり、解答方針が立たず無答のままとなったり、立式の段階まで到達できなかつたりする傾向が見られた。
- 【3】(2)②：「箱ひげ図の比較」
 - ・箱ひげ図からデータの分布を比較し、適切な数学用語を用いて判断の根拠を論理的に説明する力が問われた問題。A層では「中央値」や「四分位範囲」に着目して正しく記述できたが、B層では主語の欠如や用語の混同（「範囲」と「四分位範囲」など）により減点される傾向が見られた。

(2) B層とC層で差がついた問題

- 【2】(1)：「関数 $y = x^2$ のグラフの性質」
 - ・関数の式への座標の代入や、グラフの性質を理解して値を求める基本操作が問われた問題。B層では計算手順を正確に実行して正答できたが、C層では「2乗」を「2倍」と勘違いするといった基礎的な理解不足から失点する傾向が見られた。
- 【5】(1)：「ねじれの位置」
 - ・空間図形における辺の位置関係を正しく把握する、基本的な空間認識能力が問われた問題。B層では確実に正答して得点を積み上げられたが、C層では空間図形の基礎的な知識が定着しておらず、正解を導き出せない傾向が見られた。

理 科

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)	
				A	B		
【1】	(1)	① 胞子生殖	91.2	○		(2)③図やデータとして与えられている情報が多いため、どの値を計算に用いるかの取捨選択ができていないことによる誤答が多い。特に[図2]と[図3]の差をとったことによる1.7Nという誤答が見られたため、「浮力」の概念の正しい理解を促す工夫が必要である。 (3)①「震度」という誤答が見られた。 (4)②「→」の代わりに「=」を用いる誤答が多く、基本的な表記ルールを定着させる学習活動が必要である。 また、イオン式について、銅イオン Cu^{2+} について「+」とのみ表記したり、符号をつけ忘れていたりする誤答が多く見られた。	
		② 植物の分類	76.0		○		
		③ 花粉の運ばれ方	81.8	○			
	(2)	① 浮力	88.1	○			
		② 物体の質量	47.7		○		
		③ 浮力の計算	12.8		○		
	(3)	① 地震の尺度	79.9	○			
		② 地震発生時刻の算出	56.4		○		
		③ 震源地までの距離の算出	60.1		○		
	(4)	① 電極の化学反応	51.4	○			
		② 化学反応式	38.6	○			
		③ 電子の移動と電流	63.6	○			
【2】	(1)	感覚器官	63.8	○		(1)「感覚器官」と「感覚神経」の混同が見られた。用語を単純に暗記するのではなく、理解を伴った知識の定着が必要である。 (3)「ア：音が遠くまで移動して伝わる」という誤答が多い。「音がまわりの空気の振動として伝わる」が正しいが、「音が移動する」という誤認が起こっていると考えられる。 (8)1人あたりの平均を算出していない誤答例が見られた(2.51秒)。 (9)正答率が低い状況から、知識に依存せず、読解力を育成する学習活動が必要である。	
	(2)	耳の構造	72.7	○			
	(3)	音の性質	43.2	○			
	(4)	反射の例	98.0	○			
	(5)	音の速さ	54.4		○		
	(6)	刺激から反応までの経路	63.4	○			
	(7)	筋収縮	60.1	○			
	(8)	反応速度	36.0		○		
	(9)	反応速度と日常生活	11.2		○		
【3】	(1)	日周運動	84.5	○		(3)「公転面」「地軸の傾き」に関する理解が不十分であり、地軸の傾きを説明する際に「何に対して(公転面に対して)」という視点が欠落している記述が非常に多く見られた。 (4)「エ：10月下旬」という誤答が多かったことから、地球から見た太陽の通り道の季節変化について正しく理解できていないと考えられる。授業においては、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見だして表現させたり、観察者の視点(地球からみているのか、天体全体を俯瞰でみているのか)を意識させたりして理解を促す学習活動が求められる。	
	(2)	日周運動の変化	39.3		○		
	(3)	地軸の傾きの影響	2点	15.1			○
			1点	6.0			
			無答	12.0			
	(4)	太陽の通り道の変化	21.2		○		
	(5)	① 夏至の日の出	65.6	○			
② 夏至の日の入り		46.7	○				
(6)	表の読み取り	51.3		○			
(7)	日の出時刻の推察	33.0		○			
【4】	(1)	オームの法則	74.8		○	(3)グラフ作成における条件不足による失点が極めて多く、基本的な技能の習得不足が課題として挙げられる。授業内のレポート作成などを通して、実験データの処理技能を高めていく必要がある。 (6)分から秒への単位の変換や2分間の温度上昇に着目することができていないことに起因する誤答が見られた。 (7)①、②複数の過程を踏む計算問題での無答・誤答が見られた。	
	(2)	オームの法則	63.9		○		
	(3)	グラフの作成	34.2	○			
	(4)	消費電力	14.2		○		
	(5)	熱量	44.5		○		
	(6)	熱量	11.4		○		
	(7)	① 電力量の和	5.4		○		
② 生活と消費電力		11.6		○			
【5】	(1)	状態変化	48.5	○		(1)正答率の低さから、状態変化における誤った認識があることがうかがえる。1学年で履修する内容であるが、粒子の概念は化学の学習の基礎となるものであるため、「拡散」などの現象と併せて正しい理解を促す学習活動が求められる。 (7)、(8)単純な公式の当てはめではなく、算出された数値をさらに活用して計算を進めるプロセスでの無答・誤答が見られた。与えられた情報を整理し、見通しを持って粘り強く思考する力が求められている。	
	(2)	固体の粒子	69.2	○			
	(3)	密度	64.5	○			
	(4)	状態変化と密度	59.6	○			
	(5)	メスシリンダーの読み取り	88.3	○			
	(6)	密度の計算	28.8		○		
	(7)	混合物の密度	8.7		○		
	(8)	原子の数	1.7		○		

【評価の観点】 A：知識及び技能 B：思考力、判断力、表現力

2. 得点層別にみる解答の傾向と分析

- ・学力検査 [理科] の平均点 26.4 点に基づき、以下の得点層で評価の観点別に解答の傾向を分析した。
A層：37 点以上 B層：17 点～36 点 C層：16 点以下

(1) 知識及び技能を問う問題に関する傾向と分析

A層	○基礎・基本的な問題の多くを正確に解答している。特に【1】などにおける用語を答える問題はほぼ完答に近い。 ○問題の意図を正確に読み取り、必要な情報を抽出する力が身に付いている。
B層	○基礎・基本的な知識問題は一定程度解答できている。 ○複数の概念を理解する必要がある問題で正答率が平均を下回る傾向にある。また、グラフ作成問題で不十分な点（プロットの不鮮明や原点忘れなど）が見られる。
C層	○基礎・基本的な知識問題においても誤答が多く見られる。 ○問題文や図の読解力、実験操作に関する理解が不足している傾向がある。

(2) 思考力、判断力、表現力を問う問題に関する傾向と分析

A層	○複数の情報源（図、表、文章）を統合して解答を導く問題、例えば全体正答率の低い【5】「密度の計算」といった問題で高い正答率となっている。 ○記述問題においても、用語を適切に使い、筋道を立てて説明することができている。
B層	○実験結果から考察を行う問題や、与えられた条件から応用的な思考を要する問題で、十分な論理展開ができていない場合がある。 ○記述問題では、用語の誤った解釈や論理の飛躍が見られ、表現力に課題がある。
C層	○現象を図で解釈する問題や順を追って計算を重ねていく問題で、知識の定着が不足しているため、情報の正確な読み取りができていない可能性がある。 ○計算問題全般、特に複雑な計算や単位変換が必要な問題で失点が見られる。記述問題では無答も多く見られた。

3. 得点層別で差がついた問題

(1) A層とB層で差がついた問題

- 【3】(3)：「地軸の傾きの影響」
 - ・「地軸が傾いている」という知識はあっても、記述において「公転面に垂直な方向に対して」という比較基準を明示できたかどうかでA層とB層の大きな差となった。B層では「公転面」というキーワードをうまく扱えていないものや、用語の混同（自転と公転）が多く見られた。単純な用語の暗記にとどまらない、地球と太陽の位置関係を具体的にイメージするといった天体現象の正確な理解が不可欠である。
- 【4】(6)：「熱量」
 - ・複数の情報から必要なものだけを取捨選択する読解力が必要である。B層では「分から秒」への単位変換のミスや、2分間の温度上昇に着目できなかったことによる失点が目立った。

(2) B層とC層で差がついた問題

- 【1】、【2】の用語記述：「孢子生殖、感覚器官、耳の構造」など
 - ・B層は概ね正答できているが、C層は用語の混同（「感覚器官」と「感覚神経」）や、漢字の書き間違い（うずまき管を「官」とするなど）による失点が目立った。
- 【1】(4)②：「化学反応式」
 - ・C層はイオン式や化学反応式の基本的な表し方が身に付いていないための失点が多い。イオンの記号の付し方、左辺と右辺は矢印でつなぐ、などの表記ルールの定着が求められる。

英 語

1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項 目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)	
				A	B		
【1】	A	1番	94.3	○		対話内容を正確に聞き取る力が求められる問題であった。絵の描写、交通手段の選択に関するどちらの対話もよく聞き取れていた。 アナウンス内容から必要な情報を聞き取る力が求められる問題であった。特に3番においては、聞き取った情報を整理・統合した上で解答する必要があったため、比較的正答率が低かった。 対話内容の要点を理解する力が求められる問題であった。3番においては、対話の要点理解に加え、聞き取った内容の言い換え表現を正確に把握する力も必要とされたため、正答率が低かった。	
		2番	97.7		○		
	B	1番	66.3	○			
		2番	74.5	○			
		3番	57.7		○		
	C	1番	59.8	○			
2番		77.9	○				
3番		28.5		○			
【2】	A	(1)	48.3	○		英文の正確な読解力に加え、基礎的な知識の定着が求められる問題であった。(1)では現在完了形の否定文に関する知識不足が見られ、(2)では会話文から適切な英語を抜き出すことができている解答が散見された。(3)は英文の概要を正確に捉えることができなかつたために、比較的正答率が低かった。 ポスターと会話の内容を正確に理解し、情報を整理する力が求められる問題であった。(2)は会話文中の複数の英文から情報を整理する必要があったため、比較的正答率が低かった。	
		(2)	71.8	○			
		(3)	40.9		○		
		(4)	63.0		○		
	B	(1)	55.6		○		
		(2)	44.4		○		
【3】	(1)	場面に応じた英文の選択	76.4	○		会話の流れを理解し、適当な表現を選択することができていた。 仮定法の正確な形式を理解していない解答や適切な動詞を使用していない解答が多く見られ、正答率が低かった。 特定のテーマに対する自分の考えを、簡潔な語句や文を用いて記述する力が求められる問題であった。無答は減少傾向にあったが、主語と動詞を適切に使用できていない記述が散見された。	
	(2)	場面に応じた英文の記述	22.7		○		
	(3)	旅行をすることのよさについて	5点 10.6 4点 3.0 3点 45.4 無答 18.6		○		
【4】	(1)	英文・グラフの説明	37.4	○		グラフおよび英文の内容を理解し、その要点を適切に捉える力が求められる問題であった。特に(3)では、不定詞の理解が不十分なために適切な語句を抜き出せない解答が目立った。 身近な課題の解決策に対する自分の考えを、簡潔かつ正確な語句や文を用いて書く力が求められる問題であった。設問の趣旨を捉えきれない記述や、基本的な文法・語法の誤りが散見された。	
	(2)	②	英文の要点理解	52.9			○
		③	英文の要点理解	54.6			○
	(3)	英文の読み取りと語句の記述	30.6		○		
	(4)	英文の読み取りと語の選択	48.3	○			
(5)	身近にある課題について	4点 9.7 3点 3.2 2点 19.4 無答 36.8		○			
【5】	(1)	下線部の理由	66.2		○	話の展開とともに、登場人物の心情変化を理解する力が求められる問題であった。(4)では登場人物の心情変化の理解に加え、前置詞の用法の知識も必要とされたため、正答率が低かった。また(6)においては、スピーチ内容を踏まえた会話の流れの理解、適切な語句の選択、英文からの正確な抜き出しといった複数のタスクが求められ、全体的に高い負荷がかかる設問であったため、正答率が低かった。	
	(2)	英文の内容理解	55.1		○		
	(3)	英文の内容理解	39.3	○			
	(4)	英文の要点理解	22.2		○		
	(5)	英文の要点理解	40.5		○		
	(6)	⑥	英文の要点理解	31.9			○
		⑦	英文の要点理解	33.0			○

【評価の観点】 A : 知識及び技能 B : 思考力、判断力、表現力

2. 得点層別にみる解答の傾向と分析

- ・学力検査〔英語〕の平均点 28.5 点に基づき、以下の得点層で評価の観点別に解答の傾向を分析した。
A層：39 点以上 B層：19 点～38 点 C層：18 点以下

（1）知識及び技能を問う問題に関する傾向と分析

A層	○基礎的・基本的な語彙や文法事項の定着度が高く、リスニングや英文の読み取りにおいて、正答率が高かった。 ○対話の流れや文脈を正確に把握した上で、現在完了形などの特定の文法形式を適切に使分け、正しいスペルで記述する技能が身に付いている。
B層	○日常生活で使われる基本的な表現や、具体的な事柄を問う短文の聞き取りは概ね正答できている。 ○文法の知識の活用において、現在完了形などの特定の形式を伴う記述や語句補充で、スペルや文法的な細かなミスによる失点が見られる。
C層	○イラストの内容と音声を結び付ける問題では一定の正答率が見られる。一方、数値や場所などの具体的な情報を聞き取る問題では正答率が大きく低下する。 ○語彙の定着が不十分であり、基本的な単語のスペルミスや、三人称単数現在形の-s、複数形の表記といった基礎的な技能の定着に課題がある。

（2）思考力、判断力、表現力を問う問題に関する傾向と分析

A層	○複数の英文等を横断的に分析・整理し、論理的に思考する力が身に付いている。英作文では、設問の意図を正確に捉え、根拠に基づいた一貫性のある記述ができています。 ○代名詞の指す内容や文脈の推移を正確に把握し、場面に応じた適切な表現を選択・記述できている。
B層	○英文の概要把握はできているが、複数の情報を整理・統合する必要がある問題において、情報の読み落としや整理不足による失点が見られる。 ○英作文において、語数は満たしているものの、代名詞の誤用や、自動詞・他動詞の区別といった表現の正確性に課題がある。
C層	○英文等の要点理解において、単語の断片的な理解にとどまり、全体の主旨や論理展開を捉えることに課題がある。 ○記述問題では、英語の基本的な構文 (S+V) が成立していない解答や、日本語の語順のまま単語を並べた解答が多く、表現の土台となる構成力が不足している。

3. 得点層別で差がついた問題

（1）A層とB層で差がついた問題

- 【4】（3）：「英文の読み取りと語句の記述」
 - ・英文の情報を整理し、文脈に合う内容を補う力が問われた。A層は英文全体を正確に把握し処理できた一方、B層は情報整理が不十分で、適切な表現を導き出せなかったことが差のついた大きな要因である。
- 【5】（4）：「英文の要点理解」
 - ・英文の展開や登場人物の心情変化を読み取り、適切な語を補う力が問われた。B層の正答率はA層に比べ非常に低かった。これは、話の筋道や心情の推移は理解できても、文脈に即した適切な語彙を選択することに課題があったためと考えられる。

（2）B層とC層で差がついた問題

- 【3】（1）：「場面に応じた英文の選択」
 - ・場面設定に即した定型的な応答や基本的なコミュニケーション表現の知識が問われた。B層は基礎技能が定着していたが、C層は誤答が多く、日常場面での基本的な知識の定着度に課題が見られた。
- 【5】（1）：「下線部の理由」
 - ・英文内容から下線部の理由を推察し、適切な選択肢を判断する力が問われた。B層は正答を導き出したが、C層は語彙不足に加え、対話の主旨を論理的に捉え正答を導き出す過程に課題が見られた。